赤いコインローファー伝説は今も健在。「靴はカカトで履く」が信念である創業90年の関西の雄

ストレートチップ
6万円〜6万5000円

パーティーや冠婚葬祭まで幅広い用途に使えるのが黒のストレートチップ。コバヤシのストレートチップは癖がなく、正統的なデザインなので長く履いても飽きがこない。既製靴も注文靴も価格は同じなのでぜひオーダーで。

コインローファー
6万円

かつて我々がIVYに夢中だったころ、コバヤシの赤いコインローファーは憧れの的だった。当時「コバヤシの赤」と呼ばれた革は今も健在。休日にコットンパンツとBDシャツに合わせれば、お洒落なカジュアルが完成する。

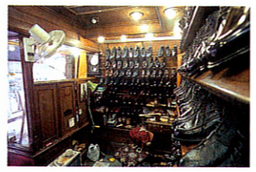
美しく仕上げられたカカトは足の形をトレースするように丸みのある曲面で構成されている。靴に足を入れればすっぽりと包み込み、歩く度にしっかりとついてくる。履きやすさと歩きやすさを追求する靴ならでは。

カカトは外側から、バチと呼ばれる補強革、甲革、腰玉と呼ばれる芯革、中底の4種類（層）からなる。三角に刻みが入れてあるのはカカトに収まったとき、革同士が重なってカカトがゴロゴロしないようにするため。好適な部材選びと熟練の技とがあいまってコバヤシの注文靴は「食いつくようなカカト」として高い評価を得ている。

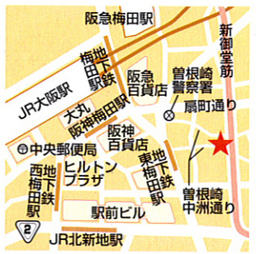
カカトの芯革、腰玉の加工前と加工後、手前が元々のサイズで福島さんが顧客のカカトに合わせて水に浸したり、削ったり鋤いたりしてジャストフィットする腰玉を作り出す。根気のいる作業だ。

4枚の革を重ね、木型に被せて引っ張り、甲を仕上げる作業「吊り込み」。丁寧に作られた靴を象徴する重要なパートである。革の引っ張り具合、釘の打ち方ひとつでフィット感が変わってくる。居つきのよさはここで決まる。

靴 コバヤシ
KOBAYASHI



既製もオーダーも1足6万円〜。製作期間は約1か月半。リペアはオールソール取り替えで1万5000円〜2万円程度。カカトの取り替えは3500円。1足を30年、40年と愛用する履き上手もいる。



靴 コバヤシ
☎06・6311・7368
〒530-0057 大阪市北区曽根崎2-10-29
営業時間：11時〜20時30分（平日）
12時〜17時（日・祝日）
定休日：第3日曜日
カード使用：可

靴 コバヤシの3代目店主、福島靖庸（やすひろ）さんの話を聞いていると一般人の知らない靴の専門用語がポンポン出てくる。カカトの補強革はその形からバチ、カカトの芯は腰玉、釘抜きと金槌が一体化した道具はワニ、といった具合だ。早口で大阪弁でしかも専門用語が混じるので、いちいち話を中断して聞き返したが、ニコニコ笑いながら「腰玉というのはな…」と、一からやさしく教えてくれる。

福島さんから聞いた専門用語で一番印象に残ったのは「居つき」という言葉だった。居つきがいい悪いという使い方をする。意味としては、靴の中の足の収まり方がしっくり来るか来ないか、というニュアンスだと思うが、いいカカトの条件を聞いたとき、彼は居つきがいいことをまず強調していた。

「靴はな、居つきのいいカカトと甲で履くようになってるんや。つま先のほうは遊ばせておけばええ」。福島さんの言うとおり、確かに我が歩行運動をするとき、靴の中で足指は自在に動いたほうが本来の健康な歩行が約束される。

福島さんは履きやすさ、歩きやすさのためにカカトの作り方を重視する。コバヤシの場合、カカト部には4枚の革が重ねられているが、足がゴロゴロしないように芯になる革を薄く削ったり、収まったときに革同士が重なり合わないよう刻みを入れたり、芯自体の材質にもこだわるなど、細心の心配りを忘れない。コバヤシの注文靴は一人一人のカカトに合わせて福島さんが長年の経験を元に微調整する。

いい靴の見分け方も教えてもらった。いい靴は持ったときより履いたときのほうがずっと軽く感じるそうだ。コバヤシの靴も持つとずっしり来るが履けば実に軽い。

岩澤 隆・文
text by Takashi Iwasawa
青柳達夫・撮影
photographs by Tatsuo Aoyagi